

Khetpakorn Chakarawet 助教授

Khetpakorn Chakarawet 先生は、タイのマヒドン大学(Mahidol University)理学部化学学科の助教授 (Assistant Professor) で、2015 年にマサチューセッツ工科大学 (Massachusetts Institute of Technology) を卒業後、カリフォルニア大学バークレー校 (The University of California, Berkeley) に進学され、2020 年に Jeffrey R. Long 教授の下、化学の分野で博士の学位 (Ph.D.) を取得されました。その後、カリフォルニア大学デービス校 (The University of California, Davis) において、R. David Britt 教授の下でポスドク研究員をされていたのですが、2022 年に本国に帰国され、現在に至っております。Khetpakorn 先生(私たちはそのようにお呼びしています)は、核磁気共鳴画像法 (MRI) および量子技術への応用にむけた量子スピン系の化学合成をされており、MRI 造影剤としての遷移金属錯体や常温での量子コンピューティングのための安定フリーラジカルの開発をされている、新進気鋭の研究者です。無機化学講座の福田貴光先生が窓口となり、数年前から熱・エントロピー科学研究センターとの共同研究が行われています。

Khetpakorn 先生は、MRI 造影剤開発の候補物質として単分子磁性体で有名な Mn_{12} 錯体に注目されており、 Mn_{12} 錯体中の配位子に親水性官能基を導入することにより、当錯体が水溶液中で分散して機能を発現するような新規の Mn_{12} 錯体を開発中です。今回、Khetpakorn 先生が、10 月中旬から 2 か月間、JST プログラムで阪大工学研究科に滞在されましたので、この機会に、先生に直接、当センターに来ていただいて、磁化率測定や質量分析測定を一緒に行いました。また、Khetpakorn 先生には、せっかくの機会でしたので、11 月 26 日に理学研究科 G103 号室(塩見記念室)にて、「Magnetic Metal Cluster Single-Molecule Magnets and MRI Contrast Agents」という題目で、磁性錯体を利用した MRI 増感剤に関連した最新のトピックをご講演いただきました(写真 1)。米国で学位を取得されたので、大変流暢でわかりやすい講演でした。その日の夜、「がんこ池田石橋苑」にてお食事会を催しました。Khetpakorn 先生には、伝統的な日本料理を十分楽しんでいただけたかと思います(写真 2)。

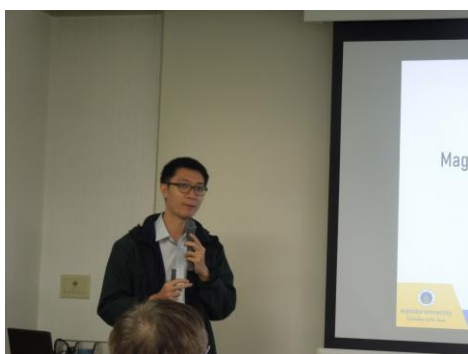


写真 1. Khetpakorn Chakarawet 先生のご講演の様子



写真 2. お食事会の後、がんこ池田石橋苑の庭園にて

JST プログラムは 12 月 15 日まででしたが、Khetpakorn 先生は、その後、来日された奥様とともに日本を観光されてから、タイに帰国されました。

(宮崎裕司)